

2015.1.23 改訂

速硬性プレミックスモルタル

# ドクター Q

施工要領書

株式会社 マノール

## ドクターQ 標準施工要領書

### 1. 適用範囲

この標準施工要領書は、ドクターQ（既調合速硬モルタル）を使用して、各種工事を行う場合に適用する。

### 2. 使用箇所と使用材料等

材 料 名	荷姿	摘要・特長等	主な用途
ドクターQ (補修用)	20 kg 袋	既調合速硬モルタル粉体	欠損部補修用 壁・床面補修用 (2～15 mm程度まで)
ドクターQ (床・厚塗用)	20 kg 袋	既調合速硬モルタル粉体	壁・床面補修用 欠損部 (5～30 mm程度まで)
ドクターQ (ライト)	15 kg 袋	既調合速硬モルタル粉体 *軽量タイプ	天井・壁面補修、クラック、 薄塗り補修 1回塗厚0～25 mm程度。
ドクターQ (ライトF3)	15 kg 袋	既調合速硬モルタル粉体 *ファイバー入 軽量タイプ	天井・壁面補修、クラック、 断面修復 1回塗厚5～25 mm程度。
ドクターQ (ライトJ)	15 kg 袋	既調合速硬モルタル粉体 *軽量タイプ JHS416 規格適合品	コンクリート片はく落防止 対策、断面修復用 1回塗厚0～25 mm程度。
ドクターQ (スーパーライト)	10 kg 袋	既調合速硬モルタル粉体 *ファイバー入 超軽量タイプ	天井・壁面補修用 欠損部 断面修復 1回塗厚0～60 mm程度。
ドクターQ (コンクリート用) ※受注生産品	20 kg 袋	既調合速硬モルタル粉体 *現場で砂利を混合する タイプ	コンクリート補修用 基礎コンクリート補修用
ドクターQ (リペアー)	14 kg 2×7袋	既調合速硬モルタル粉体	クラック、ピンホール消し 表面仕上げ塗り等。 粉末樹脂混入品。 表面仕上(化粧)0.5mm 程度以内 部分欠損 2mm 以内
マノールアクリット	18 kg 缶	セメント混和用ポリマー ディスパージョン *吸水調整材	ドクターQ用 混和剤 2～3倍に希釈して使用 *吸水調整材 接着補強・膨れ防止 下地に3～5倍に希釈して 塗布して使用
マノール SBR ボンドペースト	20 kg セット品	セメント混和用ポリマー ディスパージョンのセット品	下地調整・接着増強用 鉄筋防錆用・中性化防止

\*ドクターQの混和液は、マノールアクリット使用とする。

吸水調整材としては、マノールアクリット及びマノールポリマー#1000を使用。  
又下地の劣化具合に応じてはマノール PM エポプライマーN(水希釈型エポキシ系接着剤) が使用可能。

\*一回の塗厚さは面積や状況によって変化しますので参考程度と致します。

### 3. 標準調合

種 類	粉 体 (kg)	水 (kg)	アクリット (kg)	練上り量 (ℓ)	標準塗厚 (mm)
ドクターQ (補修用)	20	1.8	0.9	約10	2~15
ドクターQ (床・厚塗用)	20	1.8	0.9	約10	5~30
ドクターQ (ライト)	15	2.4	1.2	約12	25以下
ドクターQ (ライトF3)	15	2.2	1.1	約10	5~25
ドクターQ (ライトJ)	15	2.4	1.2	約10	25以下
ドクターQ (スーパーライト)	10	2.0	1.0	約10	60以下
ドクターQ (コンクリート用)	粉体20 砂利20	2.4	1.2	約20	——
ドクターQ (リペアー) ・クラック、ピンホール消し  ・表面仕上げ(化粧)0.5mm以内 ・部分欠損2mm以内	2	0.56	——	約1.35 14kg=9.45	——
	2	0.52	——	約1.30 14kg=9.1	0~2

### 4. 下地処理 (前処理工程)

- 1) 浮き部 : 浮き部・劣化部及び欠損部は、その周辺まで完全にはつり除去し、清掃を行う。
- 2) クラック部 : 1mm以上のクラック部は、Uカットし、ドクターQ (補修用) 等を充填する。
- 3) 塗料及び油類等の付着下地 : 全面デスクサンダー等で研磨し、除去する。
- 4) 不陸部 : 大きな凹部は、事前にドクターQ (補修用) 等で平滑に補修する。

## 5. 工法

### DQ-1工法（床面の補修：3～10mm厚程度）

#### 1) プライマー（吸水調整材）の塗布

下地全面に、マノールアクリットを3～5倍希釈液をハケ・ローラー等で、所定量、塗布し乾燥させる。

#### 2) 下塗り（不陸調整）

大きな凹部は、事前に所定の調合のドクターQ（補修用）等で、平滑に補修する。

#### 3) 上塗り

所定の調合のドクターQ（床・厚塗用）を、コテで所定の塗厚さに平滑に塗付ける。（3～10mm厚）

硬化を見計らい、表面のコテ塗ムラを研磨し平滑に仕上げる。

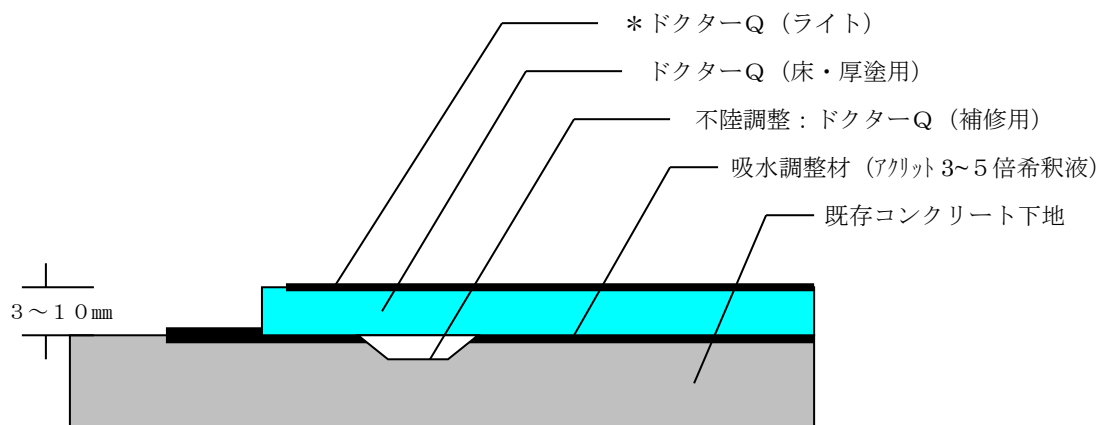
#### 4) 表面仕上げ

下地の施工精度に応じて、所定の調合のドクターQ（ライト）を、コテでしごき塗りし平滑に塗付けて仕上げる。

\*上塗りの工程で平滑に仕上げた場合は、表面仕上げの工程は行わない。

<施工完了>

[図-1, 施工概念図：3～10mm厚]



## DQ-2工法（床面の補修：10～30mm厚程度）

### 1) 吸水調整材の塗布

下地全面に、マノールアクリットを3～5倍希釈液をハケ・ローラー等で所定量、塗布し乾燥させる。

### 2) 下塗り（不陸調整）

大きな凹部は、事前に所定の調合のドクターQ（補修用）等で、平滑に補修する。

### 3) 上塗り

所定の調合のドクターQ（床・厚塗用）を、コテで所定の塗厚さに平滑に塗付ける。（10～30mm厚）

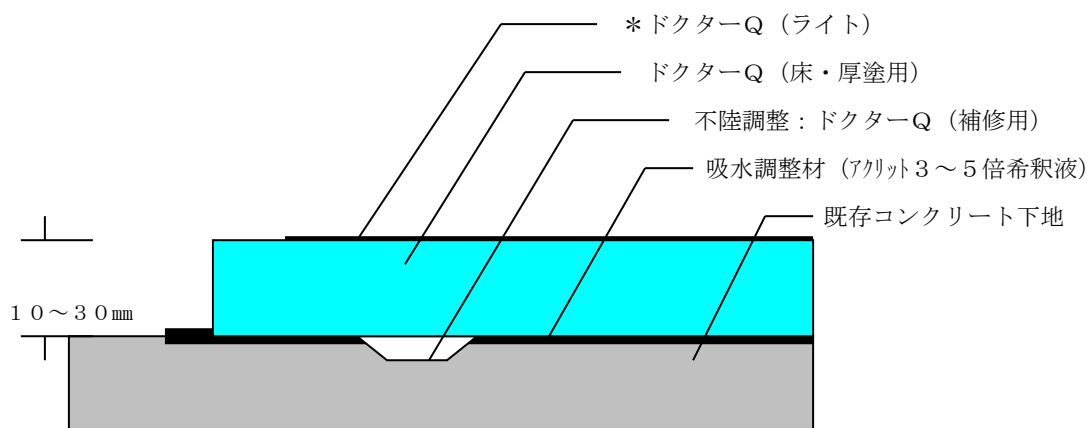
硬化を見計らい、表面のコテ塗ムラを研磨し平滑に仕上げる。

### 4) 表面仕上げ

下地の施工精度に応じて、所定の調合のドクターQ（ライト）を、コテでしごき塗りし平滑に塗付けて仕上げる。

<施工完了>

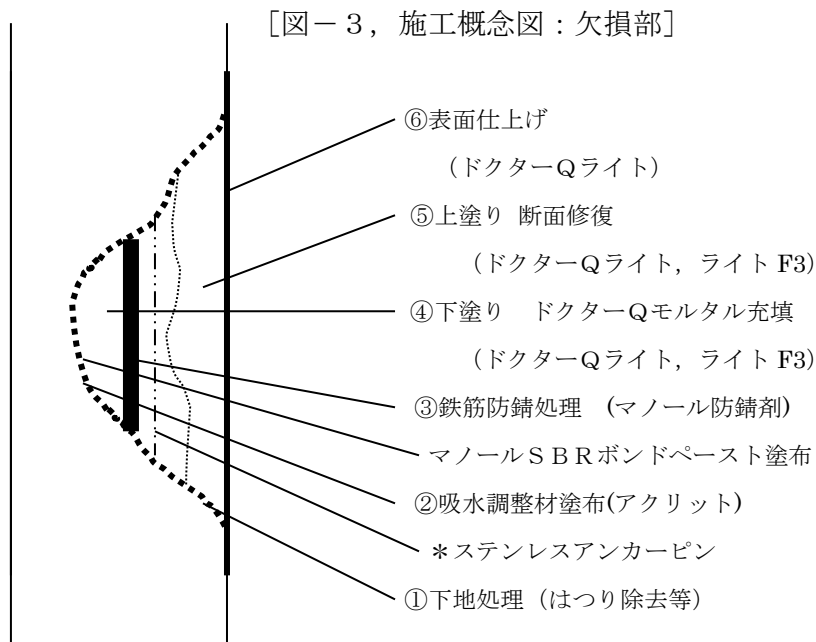
[図-2, 施工概念図：10～30mm厚程度]



### DQ-3工法（欠損部補修：壁面）

- 1) 浮き、劣化部は、はつり除去し、鉄筋の発錆部はケレン除去する。
  - 2) プライマー（吸水調整材）の塗布  
補修部に、マノールアクリットの3倍希釈液をハケ・ローラー等で所定量、塗布し乾燥させる。
  - 3) 露出した鉄筋部は、マノール防錆剤又は、マノールSBRボンドペーストをハケで塗布する。下地の状況に応じて欠損部全面に、マノールSBRボンドペーストをハケで塗布する。
  - 4) モルタル充填(下塗り)と断面修復(上塗り)  
所定の調合のドクターQ（補修用）又はドクターQ（ライト）及びドクターQ（ライトF-3）を充填する。1回の塗厚は、ドクターQ（補修用）で15mm以下とし、ドクターQ（ライト）（ライトF-3）は25mm以下とする。それ以上厚塗りする場合は、2～3回に分けて施工する。又、欠損部の大きさに応じて補修部に定規・当板等を施し、モルタル充填を行う。
- \*大きな欠損（300×300mm以上）の場合は、ステンレスアンカーピン及びステンレス線を併用する。
- 5) 表面仕上げ  
下地の施工精度に応じて、所定の調合のドクターQ（ライト）を、コテでしごき塗りし平滑に塗付けて仕上げる。

<施工完了>

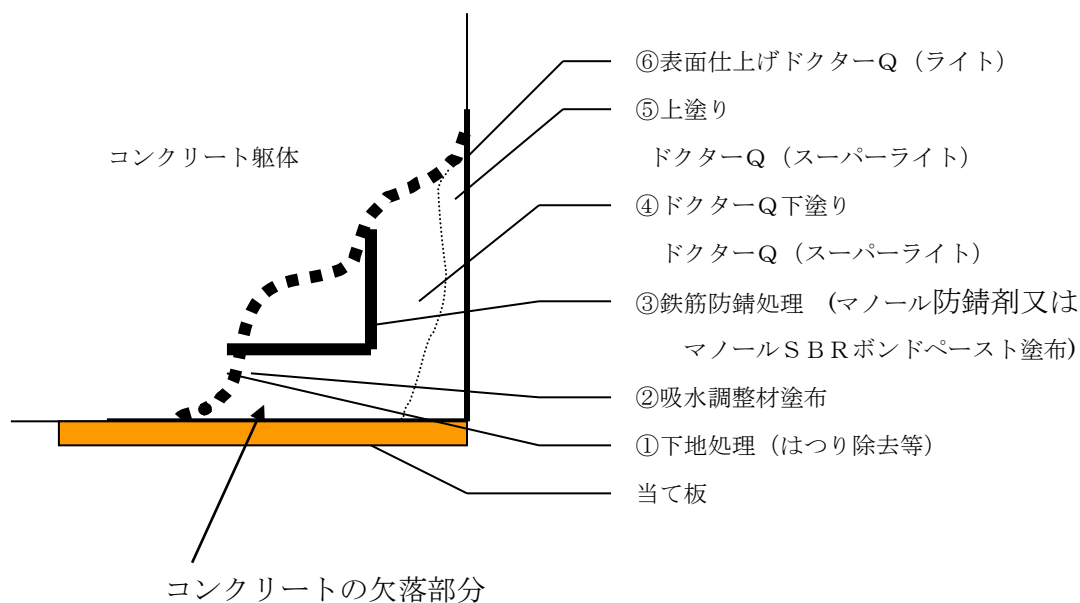


#### DQ-4工法（欠損部補修：天井面）

- 1) 浮き、劣化部は、はつり除去し、鉄筋の発錆部はケレン除去する。
- 2) 吸水調整剤材の塗布  
補修部に、マノールアクリットの3倍希釈液をスプレー等で所定量、塗布し乾燥させる。
- 3) 露出した鉄筋部は、マノール防錆剤又は、マノールSBRボンドペーストをハケで塗布する。  
下地の状況に応じて欠損部全面に、マノールSBRボンドペーストをハケで塗布する。
- 4) モルタル充填  
所定の調合のドクターQ（スーパーライト）を充填する。1回の塗厚は、60mm以下とする。それ以上厚塗りする場合は、2～3回に分けて施工する。又、欠損部の大きさに応じて補修部に定規・当板等を施し、モルタル充填を行う。  
\*大きな欠損（300×300mm以上）の場合は、ステンレスアンカーピン及びステンレス線を併用する。
- 5) 表面仕上げ  
下地の施工精度に応じて、所定の調合のドクターQ（ライト）を、コテでしごき塗りし平滑に塗付けて仕上げる。

<施工完了>

[図-4, 施工概念図：天井欠損部]



## DQ-5工法（機械基礎設置等）

### 1) 型枠設置

基礎コンクリートの大きさを設定し、型枠を設置する。型枠には、剥離剤を塗布する。下地面はケレン・清掃する。

### 2) マノールメンテペースト塗布

下地の状況に応じて、欠損部全面に、マノールSBRボンドペーストをハケで塗布する。

### 3) 速硬コンクリート打設

ドクターQ（コンクリート用）と砂利を、所定の割合で調合し、打設する。バイブレーター等で振動を加えて素早く施工を完了する。

### 4) アンカーボルト設置

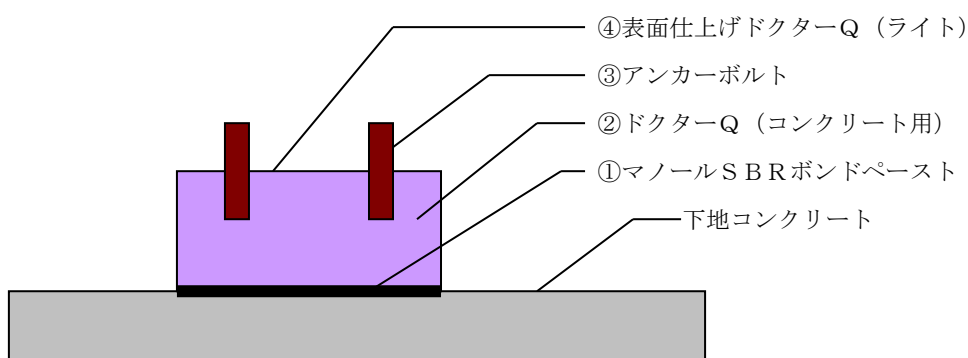
ドクターQ（コンクリート用）が硬化する前に、アンカーボルトを所定の高さに埋め込み、固定する。

### 5) 表面仕上げ

ドクターQ（コンクリート用）が硬化後、型枠を脱形し、所定の調合のドクターQ（ライト）等で表面をしごき塗りし、平滑に仕上げる。

<施工完了>

[図-5, 施工概念図：機械基礎]



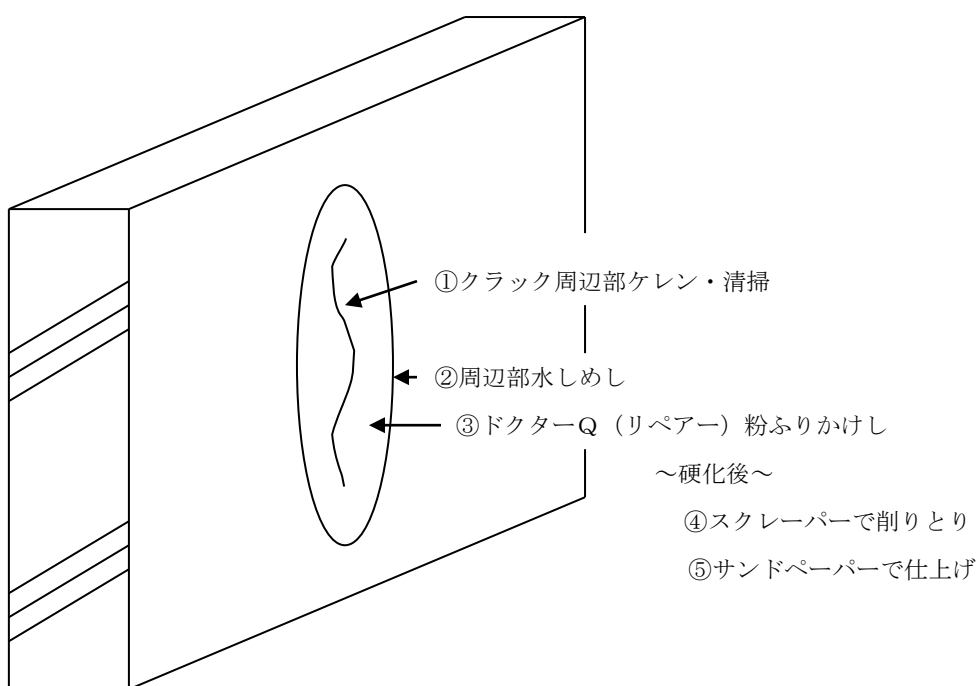
\*型枠を設ける必要が無いコンクリート躯体で拘束された箇所への充填流し込みの場合はマノールタイトグラスターも使用可能です。



## DQ-6工法（クラック・ピンホール補修等）

- 1) クラック・ピンホール補修部をワイヤーブラシ等でケレン・清掃する。
- 2) クラック・ピンホール補修部周辺に十分水しめしを行ない、ドクターQ（リペアー）を粉のまま振り掛ける。
  - \*ドクターQ（リペアー）の粉体を、ピンホールマン又は波状スポンジ等を使用して下地に擦り付ける。
  - \*大きなクラック（2mm以上）及び大きいピンホールは、Uカット又は周辺部まではつり取り、標準調合のドクターQ（リペアー）を充填する。
- 3) ドクターQ（リペアー）をゴムヘラ等で、補修部に十分にすり込む。
- 4) ドクターQ（リペアー）が硬化後、スクレーパー等で削り取り、サンドペーパーをかけて仕上げる。

<施工完了>



[図-6, 施工概念図：クラック・ピンホール補修等]

## 7. 施工上の注意点

- 1) モルタルの調合は、標準調合にて行う。
- 2) 混練りしたドクターQ、約30分以内（可使用時間）に使いきる。
- 3) 下地の付着物、ゴミ、汚れ等は完全に、除去清掃する。（カラークリート仕上げ下地等の平滑な仕上げ面の場合は、デスクサンダー等で目粗しを行い、モルタルの接着性を向上させる）
- 4) 気温が5℃以下の場合又は、施工後に5℃以下になることが予想される場合、及び降雨・降雪等の恐れがある場合は、施工を見合わせる。
- 5) 施工した補修箇所が、直射日光・強風等によって急激な乾燥の恐れがある場合は、覆いがけ等の適切な養生を行う。
- 6) モルタルの硬化初期は、衝撃・振動等を与えないようにする。
- 7) 下地がアルミニウム・ステンレス・FRP及び塩化ビニール樹脂等には、十分な接着力が得られない場合があるので、下地の種類・状況を十分に確認する。
- 8) 施工後の補修箇所に24時間以内は 水が掛からないように養生する。

## 8. 使用材料の保管等

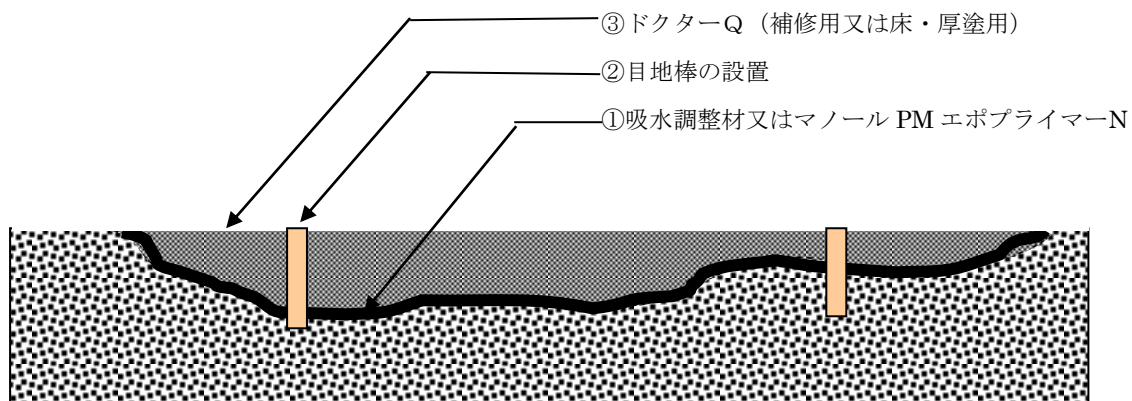
- 1) 使用材料の使用可能期間は、製造年月日から起算して4ヶ月とし、この期間を経過した材料は使用しない。
- 2) ドクターQの粉体は、雨・風・露・直射日光・寒気等を避け、湿気の少ない場所に床面を上げた台を設け、且つ防湿シート等で覆って保管する。
- 3) マノールアクリット等の混和液は、直射日光を避け凍結しないように保管する。

## 9. 安全管理等

- 1) 作業環境は「労働安全衛生法」等の関係法令を守り、安全な作業を実施する。
- 2) 下地処理に伴う「はつり工事」等の作業を実施する場合は、発生材の飛散等による損傷がないように、特別な注意を払う。
- 3) 工事によって生じた発生残土等は、都道府県条例に従って適切な処理を行う。
- 4) 材料等が眼に入った場合は、多量の水で洗眼し、速やかに医師の診断を受ける。皮膚に付着して異常がある場合も、同じ処置を行うものとする。
- 5) 使用前に必ず安全データシート(SDS)をお読みください。

\*工事に当たっては、必ず現場調査を行い、現場に最適な材料を使用した施工要領書を作成し、現場指導を行い施工に当たる。

床面補修（その2）＜補足資料＞



[注] 施工面積（10 m<sup>2</sup>以内）が小さい場合は、目地棒の設置はしない。